



消防団広報



第三十八号 二〇一八年三月
編集・発行
桑名市大字江場七番地
桑名市消防団 企画情報部会

- 2ページ 挨拶・出初式・年末警戒
- 3ページ 長島方面団・多度方面団
- 4ページ 桑名方面団
- 5ページ 特集：傷病者の搬送法
- 6ページ 女性消防団

撮影者 伊藤市長



団長挨拶

平素は、消防団活動に対し、ご理解とご指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年も多くは災害が発生し、十月の台風二十一号は三重県内にも多くの被害をもたらしました。また、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震では甚大な被害が予想されております。

私ども消防団員は、消防活動はもろろんのこと、地域の中で、なお一層幅広い活動が求められており、今後の社会環境の変化や消防団の現状を踏まえつつ、時代に即した消防団の体制や役割を考え、一層の団結を推進しているところでございます。



写真右・伊藤市長、左・柴田団長 出初式にて

今後とも職責を自覚して、団員一丸となり、市民の負託に応えるべく、日夜精励し、安全・安心なまちづくりに積極的に邁進する覚悟でありますので、なお一層のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

柴田清勝

感謝状

昨年三月末にて退団された、元多度方面団 方面団長 伊藤 肇様に、感謝状が贈られました。



北勢支会長より感謝状が授与されました。出初式にて

出初式

一月七日 長島町輪中ドームにおいて消防団・消防署員・自衛消防隊による消防出初式が挙行されました。

伊藤市長による観閲にて、徒歩部隊・車両部隊の分列行進が行われました。今年も、団員に関係のある子供達が各分団車両に乗車し、行進に参加しました。



写真・右伊藤市長を観閲者に徒歩部隊の分列行進 下子供達も車両部隊に参加

一斉放水長良川河川敷にて



式典では、永年の功労者に対し表彰状授与・市長告辞・来賓祝辞・祝電披露を頂き、消防団長の答辞にてドーム会場は閉式となりました。河川敷へと移動し、号令の下消防車両二十八台による一斉放水が実施され、消防出初式のフィナーレを飾りました。



年末警言戒

十二月二十八日～三十日 十二月二十八日、年末警言戒市長巡視で訓示を頂いた後、各分団において三日間年末警言戒を実施しました。

季節から暖房器具などで火を使う機会が多く、また年末年始は何かと忙しいため、火に対する注意がおろそかになりがちな時期です。

一人ひとりが防火に心がけ火災の無い年末年始を迎えていただくこと、また市民の皆さんが枕を高くして新しい年を迎えて頂く事ができる様に防火啓発を行いました。



伊藤市長による巡視 多度分署の様子

長島方面団

秋季規律訓練

十月二十九日

長島防災コミュニティセンターにおいて規律訓練を実施しました。各分団の役員が中心となり、各個訓練にて「停止間」における基本動作を身につける項目で、整列時での団員との間隔や足の角度、敬礼時の手首の角度などを学び、また、指揮者役を交代で行い、

号令にて小隊を動かせるよう各団員が緊張感をもって訓練に励んでいました。

礼式訓練では個人、団体での授与式での賞状の受け方を丁寧に練習しました。

基礎的な訓練の繰り返しでしたが、基本が大事だと各団員は再認識したことと思われ

ます。今後とも団員同士で声を掛け合い、日々真剣に訓練に取り組みます。



多度方面団

秋季競練会・防火パレード

十一月十二日

日頃の訓練の成果を確かめるため、例年秋に多度すこやかセンター駐車場を会場として競練会を開催しています。今年も火災現場を想定した消火活動を競技として行い、放水により標的を倒すまでの時間や動作の確実性を各班で

競い合いました。

計一九チームによる熱のこもった競技が繰り広げられ、中でもひととき迅速で確実な操作を見せた第三分団三班が優勝の栄冠に輝きました。

また、競練会の終了後、火災予防運動のため多度町内を分団車両で行進する「防火パレード」を実施し、地域の方々に火災発生の防止を呼びかけました。



分団自主訓練

桑名方面団 第十四分団
DIG災害図上訓練

六月十七日

『この揺れは大きい地震だぞ！ 相当大きなダメージが各所で発生していそうだ！』 ああうう 夢か。安心した。

しかし、本当に大災害が発生した時の各分団管内の危険個所の把握や各種情報の共有はなされているのでしょうか。そこで第十四分団では本部主催の勉強会（DIG）の内容を復習の意味で独自に開催しました。

【DIG】とは？ Disaster (災害、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の略。近隣の地図を準備し、①自宅の確認

②避難経路（幹線道路）をチェック ③避難場所（広場や高い建物）の確認 ④1人住まいの老人や災害弱者の認識を地図上に色分けしてシールを貼り、最後に⑤天災時に激震災害発生場所を想定し（崩壊 陥没 火災 浸水）赤色シールを貼ります。

Q…早朝5時30分頃 マグニチュード8以上の大地震が発生。揺れは5分ほど続き、震源地は南海トラフ近くと発表。揺れがおさまり消防団員のあなたの次の行動は？

A…自宅内の家族の安否と周囲の状況把握。詰所にたどり着く為に必要な経路の情報収集、災害弱者の状況把握。落ち着いて行動することが出来るか、詰所までの到着時間を想像してみるなど図上で地域を知り・災害を知り・行動を知る訓練です。

今回参加できなかった団員にも順次 訓練する計画です。



地図上に色分けしたシールを貼り様々な危険を予知する。Ⅱ第十四分団詰所にて

桑名方面団

第三大隊訓練（南部大隊）

十一月十九日

時折時雨模様、肌寒い訓練日となりました。
訓練と云えば、放水訓練や中継送水訓練が最近の主な訓練になりがちです。

今回の大隊訓練は、新入団員が多数加入したこともあり、基本動作に目を向け訓練内容を①規律訓練 ②分列行進 ③小隊編成としました。

規律訓練は、先ず服装の着こなし・階級章・分団記章の歪み等・身なりを整える・そして機敏な動作の確認など、号令を掛ける方も正確に、また動き易く掛ける様注意しました。

分列行進は、例年行われていた冬季教養訓練中止ということもあり、本大隊訓練のメイン訓練となりました。実際に行ってみると部隊行動は、簡単なことではありません。歩調が合わなかったり、行進スピードが速かったり、隊の前後の間隔がバラバラになる

など、幾つかの課題が見つかり時間を大幅に超過したため予定した小隊編成訓練は次回持ち越しとなりました。

時間をかけた分列行進訓練も、思うような成果を得られず、少々心残りでした。各分団で課題の克服をお願いした次第です。

今後も、消防団活動に於いて、規律・団結力・士気・迅速な部隊行動がとれるよう様々な訓練を通じて励んでいきます。



出初式に向けた分列行進
Ⅱ西分署にて

第一大隊訓練（北部大隊）

十一月二十六日

昨年に引き続き実践的な消火活動を目的に、水利を防火水槽に部署し、ホース延長後双口金具を使用し第一標的へ放水、そのまま双口金具から第二標的へホースを延長し放水し標的を落とす訓練を各分団二回行いました。基本であるポンプ操作・ホース延長・器具取扱い・団員相互連携・伝達など確認し合い、技術向上を図りました。

その後、平成三十年の消防出初式に向けての規律訓練、分列行進を行いました。



消火訓練Ⅱ西分署にて

第二大隊訓練（西部大隊）

十二月十日

三重県消防学校（鈴鹿市）の訓練施設を使って、規律訓練・熱気体験と消火訓練・消防車両操縦訓練を行いました。はじめに規律訓練を全員で行いました。礼節ある部隊行動を安全かつ確実なものとするため、団員一人ひとりの規律ある行動が求められます。分団毎に小隊を組み、大隊として一体感のあるきびきびとした動きが出来るよう行いました。

熱気体験は、AFT施設を使い、建物火災現場内の熱気状況を模擬体験しました。プロパンガスを大量に燃焼させ、点火後三分で天井付近は四百度、背の高さで百数十度と高熱となり、顔面カバー付きの耐熱ヘルメットや防火着を着ていても耐えられないほどの熱さでした。もし、皮膚の一部が露出をしていたら大火傷したと思われ火災現場の恐ろしさを身にしみて感じました。

消火訓練もAFT施設を使い、建物の面から燃え盛る火に向かって消火活動を行い、



AFT施設を使った消火訓練Ⅱ消防学校にて

最前線では火の放射熱や水蒸気の熱気を避けて行う放水の難しさや、隊を二つの小隊に分けて行ったことで現場での指揮系統および伝令の大切さも体験することが出来ました。車両操縦訓練は、火災現場へ向かう車両を安全に運行するかを学び、狭窄路へ入った場合や後退しての方向転換を行う場合に誘導する方法など実践的な内容でした。

半日という短時間の訓練だったため、濃密な内容を消化しきれなかった部分もありましたが、今回学んだことを分団に持ち帰り、安全でより充実した消防団活動が行えるよう努めてまいります。



◆◆◆◆ 特集：傷病者の搬送法 ◆◆◆◆

あなたの目の前に怪我や病気で動けない人（傷病者）がいる時、最初にするべき事は、救急車を呼ぶ事。次に迅速な応急手当です。傷病者を移動（搬送）させなければいけないこともあります。そんな時、どんなことに気をつければいいのでしょうか？



どんな時に搬送が必要でしょう？



傷病者は出来るだけ楽な姿勢で安静を保つのが好ましいのですが、下記のような場所では、迅速な搬送が必要です。

- ・危険が迫っている
例：自動車が通る道路上、倒壊しそうな建物の中
- ・安静にしても体力を消耗してしまう
例：風雨（雪）にさらされる屋外
- ・応急手当を行いにくい
例：トイレの中などの狭い場所、階段や急斜面の途中



一人での搬送法



安全確保のためにも、搬送は出来るだけ二人以上で行うべきです。しかし、現場に自分一人しかいないこともありますね。今回は、一人で担架などが無くても出来る搬送法を紹介します。いずれの方法も無理をすると足腰を痛めますので、十分注意して行いましょう。

後ろから運ぶ

意識の無い人を少しだけ移動するのに適した方法です。脇の下から両腕を入れて、傷病者の片腕を上からつかみお尻を地面から浮かしながら後ろに引っ張ります。両脚を重ねる事で地面への引っかかりが少なくなって、引っ張りやすくなります。



背負って運ぶ

両膝を引き寄せて抱え込んで、傷病者の手首を持ちます。相手の腕が自分に密着するようにして安定させます。



腕をクロスした方が背負いやすい場合があります。

毛布を利用する

毛布にくるんで上半身を浮かせ後ろに引っ張ります。身体も保温できるので一石二鳥です。上半身を起こしすぎると、内臓を圧迫するので要注意。



抱いて運ぶ

子供や体重の軽い人は、横抱きにした方が運びやすいです。ただし、骨折している場合は、この方法で運んではいけません。



移動は最小限に



必要で避けられない状況ではあっても、傷病者を動かすことは、どんなに慎重に行っても、ある程度の危険を伴います。現場の状況・傷病者の状態をよく確認して正しい方法を選択し、必要最小限の移動にとどめ、傷病者の楽な姿勢で安静にしてあげましょう。



参考資料：日本赤十字社・北九州市・横浜市のホームページ他 イラスト：山田容子



女性消防団の活動はブログでもご覧いただけます。 [桑名市女性消防団](#) 検索 ←クリック!



20年の活動を ふりかえって

女性消防団

平成30年春



平成10年4月に結成された女性消防団は今年20周年を迎えます。
「わたしたちのまちをわたしたちが守る」
をモットーに、今後も女性らしさを生かした活動を続けていきます。

団員を募集しています。
くわしくは→ 桑名市消防本部 総務課 TEL24-5274



私たち みんながちがって みんないい